

木は私であり、私は木である ～木育を通してこどもの可能性を開く～

Tree is me; I am tree.

～Discover children's potential through tree education in Hachioji～

グループ名:チームきこり

学生氏名:松田優奈¹⁾,高橋莉々¹⁾,池口はな¹⁾,飛田貴幸¹⁾

指導教員:前田幸男¹⁾

1) 創価大学 法学部 法律学科 前田ゼミ

キーワード:木育,人と自然,教育,命,感謝

1. はじめに

私たちは、八王子市の間伐材を活用して、子どもたちの心を豊かにする木育(もくいく)を提案したい。本提案では、「八王子未来デザイン2040」の「人とひと、人と自然が響き合い、みんなで幸せを紡ぐ」の実現に向け、現行の木育の可能性をさらに開くために、以下を目的とする。

- 自然豊かな八王子市の木を余すことなく活用する。
- 子どもたちに、いかに人々の日常生活に木が密着しているのかを深い次元で理解し、自然への感謝と命の尊さを感じる豊かな心を涵養する。

上記に基づいた具体的な施策提案をする。

2. 現状と課題

八王子市では「木と身近にふれ合い、豊かな創造性や自然に対する思いやりを育む」「見て、ふれて、遊び、考えることで、木のおもちゃや八王子の緑あふれる自然環境が、子どもたちの成長を支える」という目的のもと、木育が行われている。

私たちは、この目的では不十分だと考えている。なぜなら、「木と自分自身との繋がり」、「命の尊さ」、「自然への感謝」という観点が欠けているからだ。

人間は木なくして生きられないことや、木は利他的な存在であることに気づけなければ、木をはじめとした自然をないがしろにする人間になってしまう。木は地球温暖化の原因となるCO²を吸収し酸素を発生させるだけでなく、雨を呼んで、街をクールダウンさせたり、動植物の住まいを用意したり、地下では菌界との共生の場を提供したり、水を蓄え洪水を防止し、樹木の根の土砂崩れを防ぐといった役割を担っている。木があつてこそ私たちの生活である。つまり、木と人は不可分であると言える。このことを子どもたちに木育を通して伝えたい。

4. 提案内容

私たちは、「木と生きるプロジェクト」と題して0～3歳児に木のおもちゃの提供、そして4～6歳児を対象にした色鉛筆作り体験を幼稚園・保育園・子育て広場で行うことを提案する。加えて、エコ広場や学童との連携も視野に入れた木育ネットワークも提案したい。

0～3歳児には、八王子の間伐材から作られたおもちゃを1人1つずつ提供する。本プロジェクトが開始された年は、0～3歳児にそれぞれ年齢に応じたおもちゃが提供される。つまり、0歳児には木で作られたガラガラなど0歳児に適したおもちゃを提供し、3歳児にはけん玉やこまな

どを提供することになる。その次の年以降は、毎年0歳児におもちゃを提供する。プロジェクトが開始された年は0～3歳児がおもちゃを提供される対象として存在するが、その年以降に対象になるのが、まだおもちゃを受け取っていない、八王子市で新たに生まれた0歳児のみとなるためである。

4～6歳児には、幼稚園や保育園、子育て広場にて色鉛筆作り体験の場を提供する。八王子市内の木のおもちゃを取り扱う工房に、八王子の間伐材から鉛筆のサイズに切り出し、それに芯を通すための穴をあける作業までをしていただき、最終的に色鉛筆づくり体験で4～6歳児が芯を詰めれば完成となる。4～6歳児には、「芯を詰める前の木」とそれに詰める「芯の色」の両方を選んでもらうことによって、自発性を涵養するとともに、子どもたちに色鉛筆への愛着を感じさせることが可能となる。

5. 効果

このプロジェクトの効果は2つある。1つ目に、八王子市の間伐材を活用することで、環境を守ることにつながる。森林事務所森林産業課造林担当によると、令和3年度は、間伐材の出荷量が3.5haの面積に相当する量だったのに対して、そのまま山に放置した間伐材(切り捨て間伐)は39.6ha分の量だった。切り捨て間伐は、土砂災害が起きた際に間伐材が流れ出てしまい二次災害を起こす原因となる(RAUL株式会社2020)。また、放置された木々がメタンを生成し、大気汚染に繋がる(RAUL株式会社2020)。よって、切り捨て間伐をせず、間伐材を有効活用する必要がある。2つ目に、子どもが幼いうちから木と触れ合うことで、その心を豊かにすることができる。木との触れ合いを通して、子どもたちが木と心を通わせ、命の尊さを感じ、

自然を慈しむ心を育てていくと考えられる。今やおもちゃの材質はプラスチックが主流となりつつある。しかし、木のおもちゃにはプラスチックにはない良さがある。ふれたときの自然なぬもり、目へのやさしさ(株式会社大忠 n.d.)。シンプルなので遊びの自由度が高く、刺激が強すぎないので飽きにくい(株式会社大忠 n.d.)。さらに経年劣化しないので長く遊べて、次の世代にも引き継ぐことができる(株式会社大忠 n.d.)。

6. 今後の展望

木育というのは幼児から大人までの全ての人が木と深く関わって、人間性を育むものである。このプロジェクトを皮切りに大人にまで木育が拡大するようにしていきたいと考える。

参考文献

株式会社大忠(n.d.)「木育(もくいく)が子どもの心と体に育むもの」

<https://daityu.shop/column/mokuiku.html?page=2>

(閲覧日:2022年10月7日)

RAUL株式会社(2020)「伐採後放置されてしまう木々」<https://price-energy.com/column/26875>

(閲覧日:2022年10月14日)